



新町のまちづくりの視点・ 重点施策の推進

私たちの三町は、これまで独自にまちづくりに取り組み、お互いに切磋琢磨して発展してきました。

今後は合併により手を携え、それぞれの持ち味を最大限に活かし、更には一体化によりふるさとの個性を伸ばし、また、この地域に生きるすばらしさと豊かさを次世代に継承し発展させていくことを重点に、施策に取り組みます。

新町のまちづくりに当たっては、特色ある地域づくり、住民のためのまちづくりを推進する観点から、「やすらぎづくり～日本一の暮らしやすさを目指して～」を基本方針として掲げます。また、「学ぶまち」「暮らしやすいまち」「楽しむまち」の3つの柱により「人づくり」と「安全・快適なまちづくり」のための施策を、大胆かつ着実に実行していきます。

「や・す・ら・ぎ」づくり

日本一の暮らしやすさを目指して



学ぶまち

地球と地域に学ぶまち

〈将来のすがた〉

国際感覚あふれる人材が育成され、国際交流活動などが積極的に展開されています。

英語教育特区として、市川高校等の正規教員に外国人が採用され、民間の語学学校の技術を最大限に生かすなど、英語教育を中心とした国際理解教育が、幼児から高校生まで一貫した体制で積極的に進められています。

こうした取り組みにより育まれたこの町出身の人材が世界で活躍し、そうした人たちの経験が町内の子どもたちに伝えられて、新しいまち全体の国際理解教育の水準が、更に高まっています。

また、新しいまちの特色ある国際理解や英語教育に共鳴した若い夫婦や子どもが移り住み、活気あふれるまちとなっています。

一方、新しいまちでは、新住民も含め地域の自然、歴史、文化を愛する教育が更に主体的に進められて、このまちに住んでいてよかったと思う人は着実に増え、住民誰もが学習意欲を満たしながら、充実した人生を送っていることでしょう。





地域で生活し、地域に学ぶことを通じて、
子どもたちが世界的な視野を養い、
かけがえのない未来への財産となるまちを創ります。

特色ある教育（英語教育特区等）を進め、
国際社会で活躍できる人材を育てます。

- 幼少期からの英語教育を、積極的に導入します。
- 幼・保、小、中学校、高等学校間で連携して、英語教育に取り組みます。

国際的視野を培う教育を実践します。

- 国際理解、国際協力を深める教育課程を設定します。
- 国際社会を考える講座を一般に公開し、地域から世界を見る目を養います。
- 海外研修、交換留学・交流事業等を実施し、身近な国際交流を実践します。

地域に誇りを持ち、明日を担う子どもを地域で育みます。

- 地域の歴史、伝統、産業、文化などを一貫して学ぶとともに、環境問題を自らのこととして考える教育を実践します。
- 30人学級の実現について取り組みを進めるなど、一人ひとりにきめ細かい教育を提供し、個性を伸ばします。
- 町出身者や町にゆかりのある方から、学び交流する機会を提供します。
- 地域から学校教育を支援する組織づくりを進めます。
- 命の尊さを考え、生きる力を育む教育を地域全体で進めます。
- 高度情報通信ネットワーク社会に対応した情報教育を進めます。

地元食材を使った食育活動、地域産業体験学習などを進め、
子どもたちと地域産業をつなぎます。

- 懐かしい田園風景を背景に、農作業を通じて食と文化を考えます。
- 地場産業を通じて、働くことを学び地域の誇りを発見します。
- 地産地消を推進するため、学校給食に地元産品を積極的に使います。
- 生ゴミの堆肥化や太陽光や水力などを利用したクリーンエネルギー^{※4}など、地域と環境を考える教育を実践します。

※4 クリーンエネルギー／環境を汚染しないエネルギー

子どもたちから高齢者まで、
いつでもどこでも自らを高めるために学ぶ環境づくりを進めます。

- 図書館機能の充実した、生涯学習教育施設を整備します。
- 豊かな自然や、星空や夜景をはじめとする美しい景観を体験できる学習施設を充実します。
- 保護者や高齢者等の意見に耳を傾け、実践する事業を実施します。
- 誰もがいつでもスポーツに親しめる環境づくりを進めます。
- 公民館の連携などにより、生涯学習推進体制の充実を図ります。

暮らしやすい まち

人にやさしいまち

〈将来のすがた〉

子育て支援センターの整備や公共施設などのユニバーサルデザインが徹底し、誰もが使いやすい施設となって、みんなが頻繁にこうした施設を利用しています。

また、住民同士が声かけ運動や相互扶助などによりふれあう機会が増し、地域の連携による災害時の備えも行われて、潤いと人間味にあふれた優しいまちになっていくでしょう。

狭い道路が改良されて生活道路が使いやすくなるとともに、様々な施設が地域内を循環するバスや情報網で結ばれています。

小児科などの医療や高齢者や障害をもつ方が生き生きと暮らすための福祉が充実し、また、快適な住宅が提供され、日本一暮らしやすいまちとして、安全や安心に関心の高い世帯を中心に定住が進んでいます。

一方、身近な河川の水辺空間が公園として整備され、公園では、子どもたちが楽しむ歓声があがり、家族の笑顔もあふれています。

こうした中で、それぞれの世代の住民は、新しいまちを更に安全、安心で快適なまちとするため、創意工夫し、自発的なまちづくりの活動を活発に進めていくでしょう。

